

# 平成 26 年度 宇治市観光振興計画推進委員会

## 会議要点録

日時：平成 26 年 11 月 21 日（金）午前 10 時～

場所：宇治安心館 3 階 ホール

### 次 第

1. 開会
2. 委員の委嘱
3. 観光振興計画進捗状況等報告
  - ・ 宇治市観光振興計画アクションプランについての進捗状況報告
  - ・ 各アクションプランについて意見交換
4. 情報発信、インバウンド対策について意見交換
5. その他
6. 閉会

< 出席委員 >

森 正美	京都文教大学 教授
神居 文彰	平等院 住職
北村 善宣	社団法人 宇治市観光協会 会長
古賀 則行	平等院表参道商店会 顧問
佐脇 至	宇治橋通商店街振興組合 理事長
池本 将孝	宇治源氏タウン銘店会 副会長
辻 四一郎	宇治市茶生産組合 組合長
保科 秀行	公益社団法人 京都府観光連盟 専務理事
山本 哲治	宇治商工会議所 会頭
小川 嘉幸	京都府山城広域振興局 農林商工部長

事務局：宇治市 市民環境部 商工観光課

< 欠席委員 >

辻 俊宏	宇治茶商工業協会 会長
------	-------------

敬称略

《資料 宇治市観光振興計画推進委員会名簿》順

## < 要点録 >

### 【1. 開会】

事務局より開会と資料の確認。

### 【2. 委員の委嘱】

宇治源氏タウン銘店会 副会長 池本氏と京都府山城広域振興局 農林商工部長 小川氏を新たに委員に委嘱。

### 【3. 観光振興計画進捗状況等報告】【4. 情報発信、インバウンド対策について意見交換】【5. その他】

事務局より資料説明。その後各委員より発言。以下、委員ごとの発言要約。

#### 【森委員長】

アクションプラン『5-2- 京都・伏見と連携したプロモーションの実施』について、以前から伏見・宇治の連携については観光協会ベースで連携を進めてきたが、なかなか形にならなかったということから、今年度から文教大学でCOC「地域連携まちづくり研究会」を立ち上げて研究を進めている。

COCとは、文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」のことで、大学が地域と連携して地域課題を発掘し解決を図ることを目的に今年度から5年間採択された。

連携の範囲・相手について、京都市の観光部局、観光協会、商店街、事業者など、どことどういった形で連携するのが良いか現在検討中である。

研究会では、京都市全体を視野に入れながら宇治・伏見の連携でどういうものが必要かを考えており、この会議でも皆さんに具体的に意見を出していただきたい。それらの意見をもって京都市との連携に向けて話を進めていただければと考える。

#### 【神居委員】

宇治は伏見を切り口に京都市との観光分野での連携を進めていくべき。

京都市の観光冊子には、伏見まで記載されていても宇治は記載されていない。今後、京都市が出す冊子の中に宇治が一言でも入れば、宇治観光にとって新しいニーズ開拓のきっかけとなる。京都市とはうまく連携をとっていただきたい。

また、京都市との連携は京都府南部地域との連携の大きなきっかけになると考えている。宇治市にとって南部との連携は宇治茶文化の発信という意味で大事。

#### 【森委員長】

『5-1- 効果的な情報発信や 宇治市版「MICE」の推進』について、京都に来るたくさんの観光客に宇治市をどのようにPRするか十分に検討できておらず、市を挙げての取組みになっていなかったと思う。

観光 PR にかける人手や予算・仕組みについて、実態としてどれくらい宇治市にあるのかよくわからない。大きなテーマである情報発信を考えるにあたり、どういう規模でどれくらい宇治市がやれているのか。パンフレットを作るだけで手いっぱいでは話にならない。

観光に取り組むスタンスとして、宇治市は観光でやっていくんだという覚悟を決めて議論を進めていく必要がある。

#### 【辻委員】

宇治茶の生産者として観光に貢献できることといえば、良いお茶の提供と美しい茶園の景観の部分だと認識している。

景観については、市内産の宇治茶が伸び悩んでおり、それが景観にも影響してきていると感じている。実際問題、肥料の経費は高くなってきており、その割にお茶の売価が上がらないので採算が合わなくなってきている。そのため、経費節約で宇治市内特有の手摘みに手がまわらなくなり、機械で刈る茶園が増え、結果として景観を失ってしまう原因となっている。

宇治茶が高級茶ということは一般的に知られているが、なぜ価値があるのかよく理解されていないのが問題と考えている。

茶園の景観を維持するためには市内産宇治茶の価値を上げないといけない。そのためには、市内産の宇治茶のブランド化、認証制度ができれば一番良いのではないかと考えている。

#### 【森委員長】

今回の計画で宇治茶を中心に据えた理由は、宇治茶が単なる飲み物を超えた文化や一つのスタイルとしての価値が一般的に認知されており、商品としてだけでなく観光資源としても楽しめることで消費効果にも影響するという点にある。

だから、観光客に「目の前に提供させていただいているこのお茶が、この宇治で採れた宇治茶なんですよ」とストーリー性を加えて伝えることで訴求力が非常に高まると考える。

#### 【神居委員】

宇治茶のブランド化は即時進めるべきこと。例えば、宇治茶が世界遺産に登録されたとしても、その後本当に宇治市産のお茶が選ばれるのか、宇治に人が来るのかと言われるとそうではない。世界遺産に登録される前に準備しておく必要があるし、できなければまた乗り遅れてしまう。他地域産のお茶が普及し宇治市内に茶園の景観がなくなり、すべての環境がマイナス方向に変わってってしまう。

#### 【小川委員】

京都府としての基本的な考え方は、市内産の宇治茶というよりも京都府産の宇治茶として考え、京都府の計画・アクションプランでは「宇治茶の再ブランド化」というテーマで研究会を進めている。市内産の宇治茶については、ほんず・手摘みなどの手法・技術を地域商標することなどを含めて検討したい。

アクションプランの進捗については、ターゲットを絞り込んで取り組めていないと感じる。

例えば、『4-1- 学校教育における、宇治の歴史や文化、観光に触れる機会の強化』であれば、市内の学校給食のときに宇治茶を出すようにするのが有効であると思うし、高級茶である宇治茶でいえば、観光にしても生産販売にしても高所得者層や外国人向けの方が高く売れると思う。

さらに、宇治のインバウンドのターゲットは台湾に絞りプロモーションをかけているが、プロモーションによってどれだけモデルツアーの申し込みにつながっていて、来られた方が宇治をどういうルートでまわられていて、観光案内板などをどう感じておられるか、またリピートしていただけるかなど、その後の分析が必要。

#### 【森委員長】

『1-3- 宇治茶の世界遺産登録へ向けた取り組み』については、京都府で世界遺産登録に向けた活動やお茶の京都事業などを実施されているが、その中で各市町村に求められていることは、それらの事業を活かしていかにか地元をPRするかということ。京都府の事業に主体的に取り組み、地元との相乗効果を生み出せる市町村には効果があり、そうでない市町村にはほとんど効果は期待できない。

ターゲットを絞るということは、ある程度仮説をたてて絞り込みをしていくことであり、その前には継続的な調査を実施してマーケットを把握する必要がある。調査は、計画を再編するための調査とマーケットを把握するための調査とでは違いがあり、宇治市はその必要性を認識しているが両方とも継続的な調査が実施できていないし、またそういう仕組みになっていない。大きな課題である。

スイーツコンテストについて、入賞作品が商品化されていない。参加者を裏切ることにもなりイベントとしても続かない。入賞作品のアイデアを商品化する仕組み・工夫が足りない。

#### 【北村副委員長】

お茶のブランド力を高めるという点で、対鳳庵は外国人観光客にとって貴重な体験ができ印象に残ると思うが、お点前の提供だけでなく、なぜ手摘みのお茶がこんなにおいしいのか、石臼で抹茶をひくのに時間がかかることや、しつらえ、季節のかざり、花、お菓子などの説明やストーリー性を伝えることが必要。また、それらを多言語化してイヤホンで聞けるなどの仕組みが必要。外国人や若い人にもっともっと体験を通じて伝えていく必要がある。

#### 【森委員長】

宇治に来れば、知覚でも味覚でも全身で思う存分宇治茶を楽しめたと感じていただけるような、仕組みが足りない。価値を伝えることが弱い。

情報発信の面においても、誘客するためのPRや宇治に来てからの情報も不足している。

#### 【山本委員】

観光というのは、やはり市民が盛り上がっていかないと絶対にうまくいかない。先日行われた平等院夜間拝観の事業のような取組が毎年必要。

この間、観光客に嵐山に行きたいと言われたが、地図が京都市と宇治市で分かれていて説明に

困った。なんとか京都市と連携するべき。

#### 【古賀委員】

『3-1- フィルムコミッションの設立』について、熱海市役所の職員は1人で効率的に効果的な取組をされているようなので参考にされたい。宇治市も同様にそれに特化した部署があっても良いと思う。また、メディアに大きく取り上げられた場合、一時的なブームになりやすいのでそこうまく操作して取り組むようにした方が良い。フィルムコミッション設立にあたっては、モノ・人・イベント・景色・民家などの情報をストックしておくことが必要。この取組は5. 情報発信能力向上戦略にもつながる。

SNS を利用した情報発信については、ターゲット国のパワーブロガーを招致したり育成するなどして情報発信していくことが効果的。

#### 【森委員長】

フィルムコミッションについて今回の NHK ドラマも、見た人が「あれはどこだろう」と思ったときの次のアクションができていないし、来てもらえるように積極的に発信していくことがなければ効果はそれで終わってしまう。それらをうまく使って次につなげていくような人・戦略がないところが問題である。

また、インバウンド向けの恒常的な情報発信が全くできていない。

#### 【神居委員】

ロケ誘致後にどうその後の観光につなげていくかについては、当初のシナリオ作成部分から関わっていないとうまくいかない。例えばアサヒビールの CM は福山雅治を起用し背景に平等院を用いているが、見た人が来たくするような仕掛けを作っている。

NHK のドラマについても、シナリオから関わりその後の誘客に生かすノウハウを持っていなかったと思われるので、フィルムコミッションを設立する際にはそういう部分の能力を持ったかなり優秀な人材が必要である。

また、フィルムコミッションだけではなく、宇治の自然・景観を考えるならば山口県がやっているようなアーティスト・イン・レジデンスのような取り組みが出来れば良いと思っている。世界中のアーティストが集まって宇治でものを作っていく、そういうことができればシナリオからかかわっていくことができると思う。

#### 【森委員長】

現在の商工観光課は、人がいても営業担当など必要なノウハウを持つ担当・人材が置かれていない。おそらく、観光を政策の柱の一つに位置づけながらそんな状況の市町村は周りにない。フィルムコミッションの話においても、企画力やメディア戦略の能力を持つ人材が早々に求められているし、委員会で事業提案を聞いているようではいけない。庁内体制的にも、予算的にも今すぐ見直さないと手遅れになってしまう。それは、必ずしも職員を配置するというだけではなく、いつでも他団体と連携がとれる体制・関係性を作っておくということ。

アートティスト・イン・レジデンスなどの取り組みは、京都市でも国際マンガミュージアムを活用するためにトキワ荘 in 京都としてプロジェクトを実施されている。地方でも、若い人たちや地域外の人たちが地域おこしに関われる人材育成に取り組まれているが、宇治はそういう環境ができていない。

#### 【山本委員】

『3-1 舟運活用の研究』について、太閤堤の整備もあるので伏見と太閤堤が秀吉でつながればいいと思う。保津川くだけは大きな舟の通路を必要としていない。実施にあたっては、舟をどちらか一方通行にするなど京阪電車とうまく連携する必要がある。

#### 【森委員長】

世界の観光地には、同じように川が流れていてうまく活用されている観光地はたくさんある。特に外国人観光客は、日本の自然などを求めているので舟運などはニーズが高いように思う。宇治伏見をつなぐ舟運を真剣に考えるならば、宇治川改修工事も実施されているので実現可能か調査研究を早急に進めないといけない。アイデアとしては非常におもしろい。

また、観光計画推進委員会の開催にあたっては、話が行政組織の多分野に及ぶので、必ず農林茶業課、歴史まちづくり推進課、教育関係部署の職員を最低 1 人は入れないと話が進まないのではないかと。

#### 【佐脇委員】

現在、3 商店街でおうじちゃまスタンプラリーを実施しているが、おうじちゃまが「ゆるきゃらグランプリ 2014」で全国 5 位になったことで知名度が上がり、去年と比べれば雲泥の差である。無理にお買い物をしてでも景品をほしがる方もおられ、非常に経済効果が高い。

そのホットな状態を継続するためにも、年度内に 3 商店街が主体となり宇治市と調整しながら、「おうじちゃま感謝祭(仮)」を実施することを考えている。商店街を歩行者天国にすることは難しいが、それぞれの商店街でおうじちゃまにまつわるイベントを開催し、どこかでおうじちゃまに出演していただく予定。寒い時期なので会場は野外と屋内に設けることを考えている。

#### 【事務局】

「おうじちゃま感謝祭(仮)」のコンセプトとしては、おうじちゃまの全国 5 位を 3 商店街が主催となってお祝いするというもの。イベント企画会社からの提案の中には、ファミリー向けのイベントや、外国人観光客を対象とした SNS を活用した情報発信などもある。イベント開催日だけの効果にとどまらない、実験的な要素も含めて実施したい。開催日は 2 月 28 日(土)、3 月 1 日(日)を検討中。

#### 【池本委員】

イベントでは、3 つの商店街のクーポン付のマップを作成して消費にもつなげていきたいと考えている。来て頂いた観光客や地元の人が外部に情報発信するイベント・仕組みづくりを目指し

たい。

【森委員長】

イベント開催はイベントをすることが目的ではなくて、それをきっかけに地域にどううねりを作るかが大事。今から始めて動画を使って盛り上げるなど、イベントが待ち遠しくなるような状況を作らないといけない。その日だけ盛り上げるのではなく、全体をどう盛り上げるかという発想をもつことが重要。

【神居委員】

宇治の観光振興においてもイベントの実施においても、大きなストーリーを持たせて活かすことが必要。ストーリーを活かすとは、例えば、おうじちゃまの誕生日に特別なことをする。どこか10mでもいいのでおうじちゃまストリートを作ってみたり、そこでおうじちゃまグッズやお茶を売ってみる。また、八十八夜にはおうじちゃまが出てお茶をPRする。おうじちゃまがお茶のお風呂に入ってもいいくらいで、それくらいのインパクトのあることを実施する。スイーツコンテストにしてもおうじちゃまスイーツ食べ放題などいろんな工夫ができる。そうやって観光やお茶の情報を発信していく。そういう視点が必要。

【森委員長】

おうじちゃまルームなどを作って、おうじちゃまパジャマなど作れば宿泊増につながるかもしれない。やるなら徹底的にやる。

三重県の式年遷宮では、ターゲットイヤーはその年ではなく、その翌年に必ず設定されている。それは観光統計の中で、式年遷宮ごとに上下を繰り返す宿命を背負っていることを理解されており、式年遷宮の年をピークにすると経済効果が少ないということを身をもって知っておられるからである。そのため、計画はその2年後まで経済効果が及ぶように戦略を立てて実施されている。東京オリンピックを迎えるにあたり、源氏物語千年紀の時のように一過性のものにしてはいけない。宇治市はそれを経験しているはずなので、経験を活かしてほしい。

おうじちゃまについても、全国5位をとった後をどうつなげていくかが大事で、チームを作って戦略を立てて実施していくような仕組みが必要。1位になるにはそれがなければ難しい。

【保科委員】

京都府、京都市、京都商工会議所は2016年のリオのオリンピックが終わった後、東京までの4年間について、既に文化と観光の取組、「京都文化フェア（仮称）」を考えている。

京都市の観光協会と伏見の観光協会は別であるため、伏見エリアについて宇治と連携することは全体としてよいこと。また、宇治の雰囲気は嵐山とよく似ているので、京都市の町なかと連携を図るよりも、似ている嵐山と連携するところから始めるのも良い。

【森委員長】

現在、京都府が文化観光フェアを企画されているが、宇治市の観光部局は把握できていない。それは京都府と宇治市の行政間の連携と、文化部局と観光部局の連携不足が原因。各々が単独で取り組みをしても効果が薄いことが今まででわかっているところであり、どこと連携するのが効果的であるかも含めて十分に検討し実施しなければならない。

#### 【北村副委員長】

インバウンドの対応は早急に進めないといけない。カード決済の対応が特に重要で、外国人は少額でもカードを利用されているので、商店街単位で共同で決済システムを購入することも検討しなければならない。

ボランティアガイドについても、現在は英語対応できているが中国語の対応できる人材は少ないので充実させなければならない。

また、市民向けにも外国人客がたくさん来られている実態を理解していただき、観光客と市民がどのようにかかわっていくべきかを考えていただくような機会を設けることが必要。

#### 【森委員長】

宇治に住んでいる子供達が、宇治が世界的なまちであることを認識し、住んでいることに誇りを持つことができれば、外国人がもっと来やすいホスピタリティのある町になっていく。

免税やカード決済対応についても、個店で対応しにくいことを商店街単位でどうやって支援・整備していくか、すぐに検討すべきこと。

インバウンド対応について、人員や予算について真剣に考えなければならない。例えば、日本人が中国語を学んで対応するよりも、留学生など台湾や中国の感性をお持ちの方に宇治を勉強してもらう方がおそらく早く対応できる。そこで、留学生たちに声をかけるにしても、金銭的な余裕もおそらくないと思うので、ボランティアではなく手当が必要。そうした仕組みや準備ができていない。

それと、歩いて楽しめる観光地の整備が足りていないと感じる。京都市はインバウンドを含めたバリアフリー整備に取り組んでおられ、この取り組みは地元住民と外国人観光客を併せた交流人口の増加を図る一石二鳥の取り組みであり、バリアフリーを推進することですべての人々にやさしい町になることと、外国人観光客が歩いてまちを楽しんでいただけるという2つのメリットがあることから予算を投入する価値が高い。

#### 【神居委員】

観光客は他の地域と同じものがあるなら宇治を選ばない。嵐山になくて宇治にあるものといえばやはり宇治茶。宇治にしかないものを考えたとき、そのほかには2つの世界遺産が考えられる。

宇治だから先にできることや、将来に視点を向けた取り組みをしていかなければならない。事業者は本来そのように取り組んでこられているが、行政なり推進委員会でもそのように取り組んでいく必要がある。

例えば、外国人向けの宇治茶のパッケージを作るなど、宇治茶の本場である宇治で取り組みればそれだけで話題になる。

**【森委員長】**

これまで議論されたたくさんの課題や問題は、実際、市だけでは解決することが難しいが、どんな人に協力してもらって解決していくか、どういった仕組みを作るかということを考えていかなければならない。例えば、宇治市内の社寺仏閣を集めて考えてみるとか、商店街だけ集まっていただくとか、そういう人間関係の濃い仕組みを作るのが行政の仕事である。

**【事務局】**

本日いただいた様々なご意見をもとに関係部局とも充分調整し、観光振興計画を推進していきたい。本日は長時間にわたってご議論いただき、ありがとうございました。